#118

コアツモリソウ

絶滅危惧II類(VU)

Cypripedium debile

コアツモリソウ(愛知県　10.05/22)

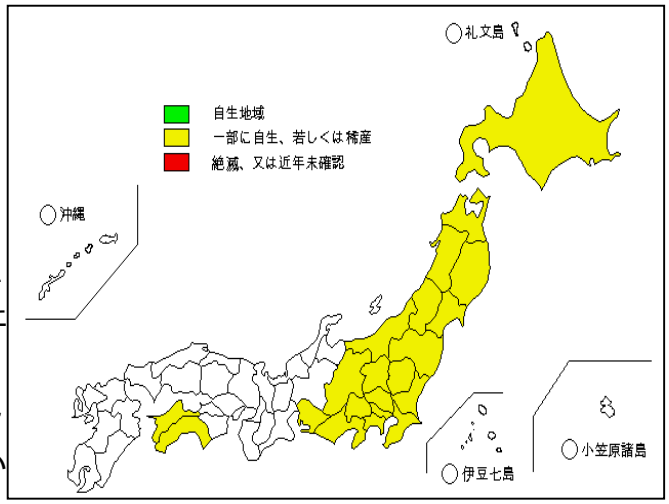
全国の冷涼な山地に自生するアツモリソウの仲間で、草丈は5～10cmと小型で対に二枚の葉を展開します。花は6月頃に葉の影に隠れるように咲きます。小指の爪ほどの小さな花ですがよく見るとアツモリソウ属特有の袋状をしており大変かわいらしい蘭です。

アツモリソウ属の中では珍しく低地に自生します。(とはいっても中部地方では600m級の冷涼な山岳部ですが)

薄暗く湿気が十分な杉林などに落ち葉に埋もれて自生します。冬期は地上部は枯死し地下茎だけで越冬します。

自生地ではキンセイランやナツエビネなどと共に自生しておりました。1ヶ所の個体数は多い蘭ですが、環境の変化に弱く開発や業者による大量盗掘などで一気に絶滅してしまう危険があります。

さらにアツモリソウほどではありませんが、かわいらしく観賞価値の比較的高い蘭のため、小規模な盗掘や撮影者の踏み荒らし、林道の整備などでも大きなダメージを受けています。



全国の冷涼な山地に自生します。

コアツモリソウの花(愛知県　10.05/22)

アツモリソウのようにバルブを持たず体力がない為自生環境は特にデリケートなようで、自生地でも少しでも日差しの強いところには全く生えていないこともあります。

また茎も根も貧弱な為昆虫による食害や梅雨の花芽腐れなどでもダメージを受けやすく、さらには暑さにも弱いです。

自生地ではランナーによる増殖のほか、実生での株更新が主な手段となっているようです。落ち葉の中に浅く根を張り、か細い茎にたった二枚の葉でがんばって光合成をしている姿はある意味たくましくも感じます。

上記のように様々な要因の危険にさらされている蘭なので、もし好運にも自生地に出会うことができましたら、どうかまずは足元に注意して傷つけないようにそっとしておいて下さい。

Document and photo by LittleFlower 2010

本種は渋さとかわいらしさで根強い人気があり好んで栽培されており、少量ではありますが商用生産もされている為野草店などでの購入が可能です（500～1000円くらい）
但し未だに盗掘株を堂々と売る業者もいますので、更なる盗掘を助長しない為にも何卒自生株の購入はお控え下さい。
デリケートな蘭ではありますが、栽培自体は比較的容易です。十分な潅水と通風、通年に渡り直射日光を避けること、夏場の猛暑対策さえしっかりしていれば毎年花を咲かせてくれます。
増殖についてはあまり望めるものではありません。適した環境で栽培することができればランナーで芽数を増やすことは可能です。自生地では実生による増殖が主ですが、栽培下では結実させると親株の体力も著しく落ちるためあまり好ましくありません。

コアツモリソウ(愛知県　10.05/22)

コアツモリソウ(愛知県　10.05/22)

コアツモリソウと同じCypripedium属で一番有名なのは寒冷地に生えるアツモリソウです。アツモリソウよりも色が濃く花が大きいホテイアツモリソウ、その中でもさらに濃紅色で重宝される釜無ホテイアツモリソウと呼ばれています。また、北海道礼文島固有のレブンアツモリソウ、北海道の一部に稀産するカラフトアツモリソウなどがあります。 そのほかに高山性で面長のキバナノアツモリソウ、その変種で赤花の大陸由来種と思われるチョウセンキバナノアツモリソウ（エゾノクマガイソウ）、コアツモリソウ同じく低山帯に自生するクマガイソウがあります。また、茨城県で確認された花茎に毛がない変種をヒタチクマガイソウとよび区別しています。

コアツモリソウ(愛知県　10.05/22)

コアツモリソウ(愛知県　10.05/22)

10.5/23作成

Document and photo by LittleFlower 2010